

距離最長4<sup>キ</sup> 中間点に

幸田町内の小中学校に通う児童生徒らの熱中症対策に役立てようと、自動車の樹脂部品加工などを手掛ける幸田町六栗の鈴木化学工業所が、通学路となっている同社正門前にウォーターサーバー一台を設置した。

(鈴木渉太)

工業所前を通学路にする豊坂 までの中間地点にある工業所に小の児童のうち、学校から約四 「給水ポイントを設けてもらえないか」と依頼した。豊坂小の保護者や住民が七月下旬、学校 校長も「歩いて通う子どもたち



ウォーターサーバーでコップに水を入れる児童ら  
幸田町六栗の鈴木化学工業所の正門前で

の口が渴くのが心配」と訴え、工業所の小幡和史社長(四七)が「子どもたちのために」と快諾した。

工業所はサーバー一台を専門業者から借り、七月二十九日から利用できるようにした。サーバーは高さ四十<sup>センチ</sup>、重さ二十<sup>キログラム</sup>。移動台車に乗せ、下校時間に合わせて午後四時ごろから三十分間、児童生徒に利用してもらっている。

幸田町は夏休み前、ぬらして首に巻けるタオルを町内の全児童生徒に一枚ずつ配布。工業所では当初、社内の水道を使っ、タオルを水にぬらしてもらう予定だった。しかし、小幡社長が豊田市の小学校に通っていた際、約四<sup>キロ</sup>の通学路の途中にあったテープ工場のコップに水を入れて子どもたちに配っていた女性のことを思い出し、その取り組みを再現することにした。

サーバーは約二十人の子どもたちが利用している。紙コップに入れた水を飲んで小休憩する傍ら、サーバー隣に引かれた水道でバケツに水を入れ、タオルをぬらしている。小幡社長は「もっと子どもたちのためになる取り組みをしていきたい」と意気込む。工業所は九月下旬まで、悪天候の時などを除いてサーバーを利用してもらう予定だ。